

絆

K I Z U N A

2020 SEPTEMBER

JAグループ青森 月刊広報誌 [885号]

9



KIBOU NO SUZUKU

世界が
認めた
おいしさ



アオレン独自の「密閉搾り」製法

「密閉搾り」製法とは、空気に触れないよう密閉した状態でりんごをすりおろし搾ること、酸化防止剤(ビタミンC)を使用せず、コクと芳醇な香りを引出す製法です。

まるかじりの美味しさ



モンドセレクション
金賞



国際味覚審査機構
三ツ星

9年連続W受賞

2011~2019

著名なシェフ及びソムリエで構成された審査員がその味覚を審査する国際味覚審査機構にて最高賞となる三ツ星を受賞し、さらに、世界でも有名な品評会の一つでもあるモンドセレクションにて優秀品質金賞を9年連続W受賞しました。世界が認めた美味しさです。

KIBOU NO S



青森県農村工業農業協同組合連合会
〒036-8317 青森県弘前市外瀬二丁目2番地1 TEL:0172-33-7520(代) FAX:0172-38-2330
☎ 0120-34-7520 URL <http://www.aoren.or.jp/>

FSSC22000
認証取得工場



「アオレンりんごジュース」の安全性は こうして確保されています！

平素よりJAグループの皆様方には「アオレンりんごジュース」をご愛飲いただき誠にありがとうございます。

今世界中がコロナ渦の中、ライフスタイルが従来と大きく変わり、これまで以上に安全で安心な食品が求められております。こうした中アオレンが事業を展開しております加工業界においても、衛生的な環境での生産はもとより、製品の安全性を担保すべく食品安全マネジメントシステムの認証取得は取り引きにおいても大きなファクターとなっており、特に輸出においては必要不可欠となっています。今回はアオレンが取得している「FSSC22000」のポイントについてご紹介いたします。

(1) FSSC22000とは（正式名称 Food Safety System Certification 22000）

全世界共通規格であるISO22000とFSSC/TS22002-1を組み合わせた食品安全のためのマネジメントシステムで、現段階では最高クラスの国際規格。イオン、コカコーラ、ウォルマート等世界の流通・食品大手約650社が組織に加入している。

(2) 安全性を担保する仕組み

ISOとHACCP（ハサップ）の利点を併せ持った国際規格がISO22000。

アオレンの生産工程はハサップで管理されており、製品安全上の危害（HA）になる可能性の要因をすべて事前に評価（危害分析）し、危害要因を除去する必要不可欠な工程を重要管理点（CCP）とし連続的に生産工程を監視することで製品の安全性を確保しています。

(3) アオレンりんごジュースの安全性

アオレンりんごジュースの安全性は、上述のマネジメントシステムに基づき管理・チェックしていることで確保されており、チェックシートは1品目の生産において約30シートで構成されております。これは全製品の生産（容器別、品目別、生産日別）で記録され、加えて出荷・配送チェックシートと併せ安全性を担保する重要な検証資料として保管されています。

今回アオレンりんごジュースの安全性についてご紹介いたしました。現在コロナの関係もあり工場見学等は受入しておりませんが、コロナが沈静化いたしましたら、是非一度工場見学にお越しください。お待ちしております。

JAアオレン

絆 9 目次 CONTENTS

メッセージ	1	経営の窓口	13
特集	2	組織農政通信	14
フラッシュ	4	JA十和田おいらせNEWS	15
インフォメーション	6	輝き	16
実践農業者支援	11	自慢の逸品	16
東北農政局通信あおもり	12	展開	17

新型コロナウイルスに 負けるな!

第4弾

～積極的な宣伝活動で
消費拡大を～

J A全農あomorい

8月31日はやさいの日 今年はWEB上で青森県産やさいのPRを!

1. 県産やさいをPRする特設サイトを開設

J A全農あomorいは、8月31日の「やさいの日」に合わせ、青森県産やさいの認知度向上と消費拡大をPRする特設サイトを立ち上げた。

サイトでは、青森いきいきやさいレディが、ながいも・にんにく・だいこんなど、県が誇る主要なやさいや旬のやさいを紹介。それぞれの品目の特徴を説明するとともに、レシピを掲載し食べ方を提案している。

この取り組みは、毎年開催している「やさいの

日」のPRイベントの代わりとなるもの。今年は、新型コロナウイルスの影響を鑑み、WEB上での展開とした。



特設サイト <https://aomori-yasai-cp.com/>

ながいも



青森ながいもは、全国トップクラスの生産量を誇り、品質は熱白で粘りが強くアクが少ないのが特徴です。
5月に種付けが始まり、11～12月（秋蒔き）と翌年後の3～4月（春蒔き）の年2回の収穫後、低温冷蔵庫で貯蔵され、年間を通じて全国へ出荷されます。



他にも、にんにく・だいこん・にんじん・ごぼう・ばれいしょ・こかぶ・トマトを紹介しています。お家でレシピをお試しください!

レシピ紹介 / ながいも入りつくね餅

パティオセントラル青森店にておバーガービルドアップののり巻きなどにもオススメです。

①ながいもは産直で買って、5センチ角切りにします。
②お肉は半分に切りに、しょうがはすりおろします。
③お肉のらにながいも、ひまわり、ねぎ、しょうが、片栗粉、塩、こしょうを入れてよく練ります。
④お餅は12分、お肉は10分加熱したら、お餅をひいたフライパンで両面じっくり焼きます。
⑤焼いている間に①の材料を混ぜ合わせておきます。
⑥火が通ったら、お肉を焼いたフライパンで焼いたら、お肉を入れて焼きます。

※ながいも - 30g 1人分
※お肉は鶏肉、豚肉、牛肉、魚肉などお好みの肉をお使いください。お肉はあらかじめ、焼けておいておくと美味しくいただけます。



特設サイトはこちらから



2. Twitter を活用したキャンペーンの展開

特設サイトの認知度を高めようと、Twitter上で青森いきいきやさいキャンペーンを展開している。

キャンペーンは、フォロー&リツイートで「青森いきいきやさいセット」が抽選で50名様に当たるもの。

詳しくは特設サイト (<https://aomori-yasai-cp.com/>) まで。



「スゴ盛」青森いきいきやさいセットを買って県産品を当てよう！キャンペーン 9月30日まで

JA全農あおもりは8月18日、青森市の県農協会館で「『スゴ盛』青森いきいきやさいセットを買って県産品を当てよう！キャンペーン」第1弾のプレゼント抽選会を開き、当選者8人を決定した。当選者には賞品として、青森の酒720mlをプレゼント。

第1弾は7月25日から31日までに注文し、8月15日までにレビューを投稿した方が対象。「大変お得な満足のいく買い物だった」「ながいもがしゃきしゃきしていて甘さを感じた」「青森の空気を吸えた気分」などのレビューがあった。



抽選会の様子

抽選した全農あおもりの笹森俊充副本部長は「青森の生産者が丹精込めたやさいを自信を持ってお届けする。ぜひこの機会に、旬の青森やさいをご賞味いただき、美味しさを体感して欲しい」と話した。

9月は、県産黒毛和牛焼肉用カルビが当たる！



ご注文はこちらから

フラッシュユ



JA青森

直売市 お盆向け切り花の直売市大盛況 (8/11)

JA青森は、お盆向けの切り花などを販売する直売市を青森市内3か所の直売所で開催した。

会場の1つであるJA青森あすなろグリーンセンターには午前5時の開始前に既に50人以上が並んでいた。

新型コロナウイルスの感染対策として、入場を1度に5人までと制限し、場内での密を防ぐよう配慮した。

5時になり販売が開始すると、300個以上用意された花が入った大きなバケツは次々と空になった。



JAつがるにしきた

りんごの新しい栽培方法 高密度わい化 (8/6)

JAつがるにしきたわけもの会は、高密度りんご栽培研修会を開き、会員10人が参加した。

高密度わい化栽培は、慣行のわい化栽培の約3倍もの本数を定植する栽培方法。フェザー苗を密植栽培することで早期多収を可能とする。定植2年目から初成りし、3年目から収穫が可能となる。また、高度な剪定技術が必要としないため、初心者でも均質なりんご生産ができるという利点がある。



JAごしょつがる

令和元年産りんご優良出荷者表彰式 (8/5)

りんご部会は本店にてりんご優良出荷者の表彰式を行った。斉藤勝徳組合長は受賞者たちの栽培努力に対し感謝を述べるとともに、「今後も一つでも多くの良品物を出荷していただきたい」と、期待を込めた。



JAつがる弘前

2020年度軽トラ市初開催 16店舗出店 (8/8)

JAつがる弘前は、同JA本店駐車場で、「軽トラ市」を開き、午前7時から、沢山の来場者で賑わった。

2年目となる今年は、新鮮な野菜や旬の果物、ジャム・ジュースなどの加工品、手作り雑貨など、16店舗に加え、JAこども共済相談コーナーや射的、普段触れることがない農業機械の乗車体験コーナーも設けた。

次回は9月12日に開催する予定。



JA相馬村

安心して農業経営をするために (8/20)

JA相馬村では、弘前市相馬地区の柴田康平さんの作業場にて、青年部を対象にGH農場評価実習を行った。GH評価員の資格を持つJA相馬村農業振興課三上拓哉指導員はチェックシートで薬剤散布や施肥の日にち等の質問を60個行い、減点方式で評価していった。柴田さんは「GHで改めて農業経営を見直していきたい。また、いつでもGAPを取得できる準備をしていきたい」と述べた。

JA十和田おいらせ



初リモートで消費宣伝 JA内に仮スタジオ (8/10)

JA十和田おいらせは、テレビ埼玉の生放送番組「おいしさ まるごとマイスター」にリモート出演した。

初の取り組みで、JA会議室にパソコンやスクリーン、バックパネル等を揃え、仮スタジオを設置。コロナ禍で、首都圏での宣伝活動が制限されるなか、新たな挑戦としてブランド野菜「TOM-VEGE (トムベジ)」をPRした。

JA津軽みらい



津軽の桃出荷始まる (8/12)

JA津軽みらいでブランド桃「津軽の桃」の出荷が本格化し、早生桃「あかつき」や中生桃「まどか」の出荷が始まり、同JAの平賀東部りんごセンターには、続々と運び込まれている。同JAでは、特産の桃を「津軽の桃」としてブランド化し販売。光センサーを使って選別し出荷し、糖度14度以上のものは「プレミアム」として差別化している。

桃は、9月までに合計4万5000箱（1箱5キ）の出荷を計画。合計の販売額は1億円を目指す。



JAおいらせ

バレイショ共選が盛んに (8/4)

JAおいらせの馬鈴薯貯蔵選別施設ではバレイショの共選が8月に入り盛んに行われている。選別施設では1日あたり平均約3千ケース（1ケース10キロ）を選果し、北海道と沖縄を除く全国各地に出荷されている。

JA担当者は「小ぶり傾向でLサイズ中心だが、品質は良好」と話す。選果は8月いっぱい行われる。

JAゆうき青森



おいしいかぶになりますように！ (8/24)

JAゆうき青森青年部野辺地地区は、野辺地町立野辺地小学校と若葉小学校の3年生児童らによる同町特産品の葉つきかぶの播種作業を各校の圃場にて行い、指導に訪れた。作業後、児童からは「かぶはどのくらい大きくなるのか」「かぶの種はどこから出てくるのか」「白色以外のかぶはあるのか」「野辺地はどうしてかぶなのか」「水はどのくらいあげるのか」などの質問があり、知識を深めた。

お盆前開催の軽トラ市賑わう (8/10)

JA八戸女性部は、JA八戸本店職員駐車場で今年度3回目の軽トラック市を行った。旬の夏野菜や桃などの果実が並び、大勢の来場者が訪れた。さらに、お盆前の開催だったため、白や黄色の菊やアスターなど、色とりどりの花々が軽トラックの前に並び、部員は「お盆前の開催だったので、切り花がよく売れた。今後も、来場者のニーズに合わせた農産物を販売していきたい」と話した。



JA八戸

県知事・県議会議長へ要請

J A 青森中央会と青森県農協農政対策委員会は8月26日、青森県庁を訪問し、新型コロナウイルス感染症対策に関する要請を三村申吾県知事と森内之保留県議会議長に行った。

コロナ禍の長期化に伴い、県産農畜産物の需要減退等の影響が出ていることから、県に対して対策を講じるよう求めた。

新型コロナウイルス感染症の影響の拡大や長期化に対応して①安全・安心な県産農畜産物の県外への販売促進対策に取り組むとともに、県内での需要喚起の取組を講じる②食料自給率向上の取組を加速化する必要があるため、輸入農産物から県産農産物への切り替えを図り、市場に安定的に供給していくための支援策③肉用牛肥育農家の経営安定を図るため、県独自の上乗せ補てん等の支援策を講じることなど6項目を要請した。

三村知事は「感染拡大の防止に配慮しつつ、県内経済の好循環を取り戻すことに注力し、今後も青森県の強みである農業分野における対策強化に向けて、要請内容を踏まえて、適宜適切に対応していきたい」と応じた。



▲阿保会長（左）から要請を受ける三村知事

県選出国會議員へ要請

J A 青森中央会と青森県農協農政対策委員会の阿保直延会長は8月26日、青森市でJ A 組合長ら17人と共に自民党県連会長の江渡聡徳衆議院議員をはじめ県選出国會議員5人に、新型コロナウイルス感染症対策等に関する要請を行った。

要請のあいさつで、阿保会長は「新型コロナウイルスの感染拡大および長期化に伴い、県産農畜産物の需要減退や消費の落ち込みが懸念されるた

め、持続可能な農業経営のための再生産に向けた支援策を講じていただきたい」と述べた。

要請では①新たな食料・農業・農村基本計画に盛り込まれた国民運動の積極的展開・国産農畜産物の需要喚起対策活用拡大に向けた取り組み②経営継続補助金の継続的实施③肉用牛肥育農家への経営支援④備蓄米の買入数量枠の拡大についてなど6項目を求めた。

江渡議員は「農業者の所得向上が一番であると考えますが、生産の体制を整えていかないとかなり厳しい状況である。要請に対してしっかり汗を流させていただければと思う」と応じた。



▲江渡議員（左）へ要請書を手渡しする阿保会長

行事（9/10～10/10）

9月

- 14日 J A 事務リスク管理研修会（教育研修所）
- 15～18日 自己査定支援システム操作研修会（教育研修所）
- 15日 臨時総会・臨時理事会（県農協会館）
- 17日 初級簿記研修会（教育研修所）
- 18日 中級簿記研修会（教育研修所）
- 23日 定例理事会・役員協議会（県農協会館）
- 24～25日 農業税務実務講座（教育研修所）

10月

- 7～9日 内部監査士検定試験準備研修会パート1（教育研修所）
- 9日 作文図画コンクール審査会（県農協会館）

県内のハウスメーカーを対象にJA住宅ローン説明会を開催

JAバンク青森では、8月18日に弘前市の弘前パークホテルで、8月24日に八戸市のきざん八戸で、それぞれの地区のハウスメーカーを対象に「JA住宅ローン説明会」を開催し、2会場合わせて50社75名の営業担当者が出席した。

本説明会は、2019～2021年度のJAバンク青森中期戦略における「貸出強化プラン」に基づき、昨年度に引き続き開催したもの。

説明会では、住宅ローンを取り巻く全国の情勢報告を行った後、他の金融機関から借入中のマイカーローン等の借換資金を資金用途に含むことができる「住宅おまとめローン」をはじめ、これまでのJA住宅ローンからの変更点を中心に、商品性等を説明。最後に各JAの融資担当者を紹介した。

その後に行われた情報交換会では、JAの融資担当者とハウスメーカーの営業担当者が、地域の現状や営業活動などについて意見を交換し、今後の活動に向けて相互理解を深めた。

JAバンク青森では、これからもハウスメーカーとの連携を強化し、JA住宅ローンの県内シェア拡大に取り組んでいく。



▲自己紹介をするJAの融資担当者(きざん八戸にて)

「よりぞう」に清き一票を!! ゆるキャラグランプリ 2020 THE FINAL

JAバンクキャラクター「よりぞう」は、今度が最後となる「ゆるキャラグランプリ2020 THE FINAL」にエントリーしている。よりぞうのエントリーは昨年に続いて2回目。

投票期間は2020年7月1日(水) 10:00～**9月25日(金) 18:00まで**。

公式サイトにアクセスしてID登録すれば、誰でも簡単に投票できる。

投票締切日が間近に迫る中、JAバンクの更なる認知度向上を目指し、最後の追い込みに頑張っている「よりぞう」に、どうか清き一票を!!



◀ 公式サイトへのアクセスはコチラから
1日1回投票できます。



行事 (9/10～10/10)

農林中央金庫

9月

- 10日 青森県JA信用担当部課長会議 (県農協会館)
- 13日 FP・金融業務能力検定試験(各会場)
- 14日 アンチマネーローンダリング研修 (県農協会館)
- 16日 JA事務リーダー会議 (県農協会館)
- 17日 JAバンク青森運営協議会専門委員会 (県農協会館)
- 17～18日 信用事業管理者実践研修 (県農協会館)
- 24日 農業融資営農類型別目利き研修 (県農協会館)

10月

- 3日 信用事業業務検定試験 (県農協会館)
- 7日 貸出管理回収実務研修 (県農協会館)
- 9日 青森県JA信用担当部課長会議 (県農協会館)

農協電算センター

9月

- 15日 臨時株主総会 (県農協会館)
- 15日 臨時取締役会 (県農協会館)

緑肥現地検討会

JA全農あおもりは、ながいも・ごぼうの連作障害回避として「緑肥」を活かした土づくりの実証に向けた試験を実施している。今年度からの新たな取り組み。

7月22日、つがる市のながいも種子研究会の試験ほ場で、今年度第2回目となる緑肥現地検討会を開き、津軽地区JA担当者および生産者らが出席。緑肥の物理性・生物性改善の機能や、異常気象に対応した土づくりについて学んだ。

検討会では、緑肥を使ったほ場に1平方メートルの穴を掘り、土壌硬度やながいもの根の伸長を確認した。地上部の生育量と根の伸長は比例しており、生育が旺盛な所の根量は多く、根の伸長は1メートル近くになっていた。

全農あおもり担当者は、「根が張ることにより地下部への雨水の浸透が促され、排水効果が期待できる。また、草種によっては有害センチュウ・土壌病害の抑制効果も期待できる。緑肥をすき込む際にモアーやチョッパーで細かく刻み、浅くロータリーがけをすることで腐植が進みやすい」と説明した。

この他、強風対策やドリフト防止の障壁作物としての機能も有する。全農あおもりでは、今後も実証に向けた試験を継続していく。



▲緑肥について学ぶ参加者

米穀に係るフォークリフト研修会

JA全農あおもりは7月28、29日の2日間、つがる市の（一社）津軽中央共同倉庫および六戸町のJAおいらせ六戸3号倉庫で「米穀に係るフォークリフト研修会」を開き、県内JAから担当者ら19人が参加。フォークリフトの基礎知識に加え、床作業や高積み方法など実技を交えた講習を行った。

参加者は実際にフォークリフトの操作練習をしながら、安全作業および破袋防止のための注意点

として「フェースプレートと米袋が並行となるように」「シートパレットがしっかりとグリップされているか」などの確認作業が重要となることを学んだ。

全農あおもり担当者は「本日研修した内容を現場で活かし、日々の安全作業に努めて欲しい。出来秋に向けてスムーズに操作できるようにして欲しい」と話した。



▲安全作業および破袋防止のための操作方法を学ぶ参加者

にんにく優良種苗生産技術研修会

青森県とJA全農あおもりは7月31日、青森市の東奥日報新町ビルで今年度2回目となるにんにく優良種苗生産技術研修会を開き、県内JAおよび関係機関から担当者ら46人が参加。佐賀大学農学部線虫学研究室の吉賀豊司氏から、にんにく生産に大きな影響を及ぼすイモグサレセンチュウの防除対策について学んだ。

吉賀氏は、「イモグサレセンチュウの防除には予防が重要で、発生密度を低く保つ工夫が大切」と話した。対策として、①汚染のないほ場を確保して優良種苗を植え付ける、②収穫時には根と茎葉をほ場外で処分する、③作業機械や長靴からの



▲土壌病害虫の防除対策について学ぶ参加者

汚染土壌の持ち込みを防ぐ一などのポイントを説明した。

県農産園芸課の近藤幹三課長は「日本一の生産量を誇る青森にんにく産地の維持・拡大のために課題を解決し、高品質安定生産を推進して欲しい」と話した。

すいかメロンフェア

J A全農あおもりは8月1、2日の2日間、青森県内のスーパー、マエダストア・イオンなど15店舗ですいかメロンフェアを開き、今が旬のすいかやメロンをPRした。

店頭の販売員は「売れ行きは好調。お中元用に、箱入りのタカミメロンを購入する人が多い」と話していた。

今年は長雨の影響が懸念されたものの、生育は概ね順調に進み甘くてジューシーな出来ばえ。全農あおもり担当者からは「出荷最盛期を迎え、多くの方に本県産の食味の良さをPRしたい。すいか・メロンを購入の際は青森県産を選んでいただけたら嬉しい」と話があった。



▲旬のすいか・メロンをPR

ラジオでりんごジュースをPR

J A全農あおもりは8月8日、ラジオ番組「J A全農 COUNTDOWN JAPAN」で青森県産りんごを100%使用したJ Aアオレンのりんごジュースの魅力を発信した。

今回紹介したのは、ねぶたのデザインと金色の缶が特徴のりんごジュース「密閉搾りねぶた缶」。番組では、「新型コロナウイルスの影響で今年のねぶたは中止となったが、ねぶたのデザインを見て夏祭り気分を味わって」と紹介した。また、商品の特徴として「酸化防止剤を使わないアオレンこだわりの製法『密閉搾り』で、りんごの風味をまるごと感じるができる」とPRした。

「密閉搾りねぶた缶」は産地直送通販J Aタウン「J A全農あおもりショップ」で販売中。

同番組は、J F N38局ネットの音楽生放送番組。毎週土曜日13時から放送している。週替わりで著名なゲストを迎え、トークを交えてランキング形式で紹介。番組内でJ Aタウン商品をパーソナリティが試食してPRする。

12月には旬の「秋掘りながいも」を紹介する予定としている。



▲ラジオでりんごジュースをPR

J A-S Sの新CMを作成

青森県J A-S S運営協議会はJ AのガソリンスタンドをPRする新CMを作成。8月より県内テレビで放映している。

CMでは1日のガソリンスタンドの移り変わりを題材とし、「1年に何度ここへ来るのだろう。いつもの風景、いつもの安心。ここがわたしのホームステーション」というコメントでJ A-S Sの「身近」と「安心」を表現している。

CMを作成した担当者は「より多くの人に『身近』なJ Aのガソリンスタンドを『安心』して利用してもらいたい。このCMでイメージアップに繋がることを期待したい」と話す。



▲新CMでJ Aのガソリンスタンドのイメージアップを

行事 (9/10~10/10)

9月

- 15日 米穀事業に係わる組合長会議 (県農協会館)
- 15日 臨時運営委員会 (県農協会館)
- 23日 運営委員会 (県農協会館)

JA自然災害損害調査員養成研修会

JA共済連青森は7月28日、県農協会館において、JA自然災害損害調査員養成研修会を開催し、県内各JAから39人が出席した。

同研修会は、建物共済の仕組み・約款を理解するとともに、自然災害損害発生時における対応や、罹災現場での留意点、自然災害時におけるタブレット型端末機の活用について知識を習得することを目的に行われた。

出席者は、令和2年7月の熊本県を中心とした九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨の記憶が新しい中、引き締まった雰囲気、知識向上のため意欲的に研修に取り組んでいた。



▲熱心に取り組む出席者

農作業事故体験VR

JA共済連では、農業者への安全啓発が少しでも進展し、1件でも農作業事故を減らすことができるよう、教育・予防効果の高いVR体験を含む農作業安全研修プログラムを開発した。

農作業事故は、他産業と比べて死亡事故の発生率が高い状況にあるにもかかわらず、農業では個人経営や家族経営が多いため、従業員への安全研修の意識が高い他産業と比べて、安全研修等への参加機会が限られている。

そこで、JA主催の研修会や農業祭・農機具展示会などのイベントで活用し、農業者への危険の周知と安全対策の啓発を行うことを通じて、農作業事故の未然防止に貢献する。

研修での体験（標準例）

	時間	概要
導入	2分	主催者挨拶および研修概要の説明
研修 (前半)	33分	VR体験と会場スクリーンのDVD映像の視聴 第1章 農作業は危険と隣り合わせ（学習動画） 第2章 乗用型農機の転倒（VR体験・学習動画） 第3章 歩行型農機の制御（VR体験・学習動画）
休憩	5分	
研修 (後半)	18分	VR体験と会場スクリーンのDVD映像の視聴 第4章 さまざまな農機との接触（VR体験・学習動画）
締め	2分	研修振り返り、農作業安全の決意表明の署名
時間	5分	60分

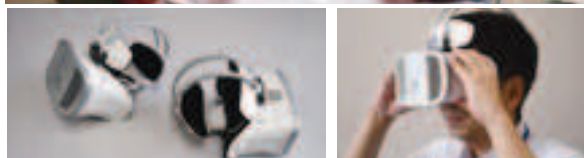
【研修会 開催風景】



イベントでの体験（標準例）

	時間	概要
導入	1分	概要の説明
体験	3分	いずれかのVR体験
締め	1分	安全作業の声かけ
時間	5分	

【イベント 開催風景】



▲VR本体と装着の様子

行事（9/10～10/10）

- 9月**
- 10～11日 安心サポーターフォロー研修会（県農協会館）
 - 12日 JA共済きずなの青い森プロジェクト（平内町）
 - 14日 共済事業担当常勤理事会議（県農協会館）
 - 15日 臨時運営委員会（県農協会館）
 - 21日 JA共済交通安全フェスティバル（道の駅とわだ）
 - 22日 JA共済交通安全フェスティバル（道の駅なみおか）
 - 23日 運営委員会（県農協会館）
- 10月**
- 2日 JA共済きずなの青い森プロジェクト（平内町）

実践 農業者支援

経営継続補助金の2次受付に向けた留意点について

国の令和2年度第2次補正予算において措置された「経営継続補助金」については、各JAのご尽力により、1次受付を無事終了することができました。

経営継続補助金にかかる2次受付期間は、7月14日に公表された公募要領では、令和2年9月中旬から、10月中旬までとされています。

そこで、今後の2次受付に向け、1次受付時に寄せられた主な質問と回答を紹介しますので、留意してください。

【1次受付のJA申請件数】

経営継続補助金 1次公募申請者数

県合計	申請数 (件)	正組員数 (農協要覧)	申請率 (%)
合計	1,607	62,371	2.6%

【事業実施期間】

令和2年5月14日から12月31日まで

【2次受付の事業実績報告書の提出期限】

1次受付と同様に「事業を完了した後の30日を経過する日または令和3年1月末まで」

【1次受付時の主な質問と回答】

Q1 高収益作物次期作支援交付金と経営継続補助金の両事業を活用することはできるか。

A1 同一の取組（例えば、事業継続計画の策定等）に対し、二重に補助金が交付されないのであれば対象となる。

Q2 昨年度までは父が経営していたが、今年から経営を継承した場合、補助対象になるか。

A2 経営継承を受けたことを証する書面（個人事業の開業・廃業等届出書）の提出が必要である。その際、添付する確定申告書類等の写しは、父親名義によるものでよい。

Q3 対象経費に係る消費税の扱いはどうか。

A3 免税、簡易課税事業者は「税込み」、課税事業者、共同申請の場合は「税抜き」となる。

Q4 接触機会を減らす取組等（1/6）の具体的な機械や取組例についてどうか。

A4 「接触機会を減らす生産・販売への転換」又は「感染時の業務継続体制の構築」については、公募要領に具体例が記載されている。ただし、これらの機械等であっても、採択審査に当たって、導入する省力化機械がどのように人手を要する作業を代替するか、作業の効率性の向上につながるかの記載が不十分だと、接触機

会を減らす生産・販売の転換につながらないと判断され、補助対象とならないことがある。このため、申請様式の「経営計画書」の取組内容に、その機械等を導入することにより、どのように接触機会を減らす生産・販売の転換につながるのか等について具体的に記載する必要がある。

Q5 取組は、令和2年5月14日まで遡及可能とのことだが5月14日以降の領収書があれば対象となるか。

A5 対象となる経費は、5月14日以降に発注、購入、支払等を行ったものに限る。

Q6 作業用車両等の購入は、（1/6）経費の対象となるか。

A6 作業用車両及び移動販売車両の購入は、接触機会を減らす生産・販売への転換等として（1/6）経費に該当しない。（台数を増やす等により省力化を図る場合でも該当しない）

Q7 自動車ローンや借入による場合、補助対象となるか。

A7 資金の調達方法にかかわらず、事業費の全額を支払った領収書等の証明書類があり、かつ所有していれば、補助金の交付を受けることができる。しかし、借入を行っている場合、補助金が振り込まれたら速やかに繰上返済する必要がある。

Q8 申請者と領収書等の氏名は違ってよいのか。

A8 申請書類の申請者の氏名と、領収書・振込伝票等に掲載されている氏名、機械等の購入者の氏名は、すべて一致している必要がある。

Q9 確定申告書類に受付印がない場合、別途資料が必要か。また、電子申請している場合はどうするのか。

A9 確定申告書の表紙に受付印がない場合には、税務署が発行する「納税証明書（その2：所得金額の証明書）」（コピー不可）またはこれに類する書類（一括提出表の押印等）を追加で提出する必要がある。なお、申請時点で提出できない場合は、採択後に提出する必要がある。また、電子申告の場合、電子申請時に受け取った「メール詳細（受信通知）」を印刷し、受付印の代用として添付する。

（中央会 農業対策部）

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針が公表されました

基本指針



米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（農林水産省HP）
https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/index.html

令和元年／2年主食用米等需給見通し (令和元年7月～令和2年6月)

主食用米の需要量は毎年減少傾向にあり、令和元／2年の需要実績は前年（735万トン）から約22万トン減少し、713万トン（速報値）となりました。

令和2年6月末民間在庫量は、前年（189万トン）から約12万トン増加し、201万トン（速報値）となりました。



令和2年／3年主食用米等需給見通し (令和2年7月～令和3年6月)

- 6月末民間在庫量は、201万トン（速報値）です。
- 令和2年産米の生産量は、3月の基本指針で設定した709万トンから717万トンまでです。（作柄等により上下します。）
- 主食用米の需要量は、1人当たり消費量（推計値）に人口（推計値）を乗じる手法により算出し、715万トン（推計値）の見通しとなりました。
- この結果、令和3年6月末の民間在庫は、196万トンから204万トンまでと見通されます。

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（7月30日公表）

		(万トン)
令和2年6月末民間在庫量	A	201
令和2年産主食用米等生産量	B	709～717
令和2／3年主食用米等供給量計	C = A + B	910～918
令和2／3年主食用米等需要量	D	715
令和3年6月末民間在庫量	E = C - D	196～204



お知らせ

令和2年産米の飼料用米等の取組計画書等について、集荷・販売が本格化する直前まで主食用米の需給動向等を踏まえた検討が産地においてできるよう、**9月18日まで追加・変更を受け付け**ることとなりました。

経営の窓口

パワハラ対策義務化に伴う就業規則の一部改正について ～ハラスメント違反には懲戒が適用～

1. はじめに

絆7月号の本連載は、6月1日に施行されたパワハラ防止法により「職場におけるパワハラ対策の義務化」がされたことに関する内容を掲載した。今回は、それに伴う就業規則の一部改正の内容について紹介する。

2. 就業規則の一部改正の主な内容

パワハラ対策義務化に伴う就業規則の一部改正の趣旨は、服務規律やハラスメント禁止規定等の違反に懲戒が適用されることである。そのため、新たな本県版の就業規則例（以下、就業規則例とする）では、第33条（服務規律）にハラスメント禁止行為（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）を明記し、あわせて第140条（譴責）、141条（減給、出勤停止）、142条（降格、論旨解雇）、143条（懲戒解雇）の条項を見直し、禁止行為等にかかる部分を第33条に集約・整理している。

以下が、就業規則例の主な変更点等となる。

- (1) 第33条では、これまでの（服務心得）が（服務規律）に変更されるとともに、服務規律遵守の原則が追加明記された。これは、服務規律やハラスメント禁止の規定に違反した場合、懲戒が適用されるからである。
これにより、第33条の服務規律では、①男女雇用機会均等法のセクハラ禁止行為、②育児・介護休業法のマタハラ等禁止行為を明確化するとともに、③改正労働施策総合推進法に対応したパワハラ禁止、④男女雇用機会均等法の性的指向・性自認（LGBT）に関する言動禁止行為についても新たに明記した。
- (2) 第140条（譴責）では、条項「(ヌ) 相手方の望まない性的言動により～」 「(ル) 妊娠・出産、育児休業等に関する～」が削除され、代わって「(ヌ) 第33条に定める服務規律に関する事項に違反したとき。」が新設された。これは、ハラスメント違反関係を第33条に集約したことによるものである。
- (3) 第141条（減給、出勤停止）では、140条と同様にハラスメント違反に関する条項を削除したほか、条項（ト）で「第33条（タ）（レ）（ツ）（ソ）（ネ）に違反したとき。」とし、第33条のハラスメント違反は懲戒処分することを一括して明記した。
- (4) 第142条（降格、論旨解雇）でも、140・141条と同様の変更があったほか、(チ)で「第33条（タ）（レ）（ツ）（ソ）（ネ）に違反し、その情状が悪質と認められるが懲戒解雇に処するほどでないとき。」と、141条より重い懲戒処分の判断基準を設定・明記した。
- (5) 第143条（懲戒解雇）でも、140～142条と同様の変更があったほか、(シ)で「第33条（タ）（レ）（ツ）（ソ）（ネ）に違反し、その情状が悪質と認められるとき。」と、142条より重い懲戒処分の判断基準を設定・明記した。
- (6) 第140条の（ヌ）、141条の（チ）、142条の（リ）、143条の（ソ）は、「第33条に定める服務規律に関する事項に違反したとき。」と同じ条文になっており、とくに判断基準を明示していない。これは、服務規律の違反があったとき、それにJAが懲戒等の対応を行う判断をした場合は処分等を行うという、運用の自由度を確保するためである。

3. さいごに

今回の就業規則の一部改正にあたって、これまで提供してきた就業規則例（全文）を全般にわたって点検したところ、対象条文以外にも多くの手直しの必要性が認められ、新たな就業規則例については、今後の法制度改正の動向も見ながら、提供時期を検討しているところである。就業規則の刷新を検討しているJAに対しては、先行提供等にも応じる用意があることから、ぜひご相談いただきたい。

（中央会 経営対策部）

組織農政通信

規制改革推進会議答申 ～農産物検査規格の見直しを提案～

政府の規制改革推進会議は7月2日、安倍首相に答申した。農業関係は、農産物検査規格の見直しや農協改革の着実な推進など7項目。今回は、答申の中から、農産物検査の見直し内容について紹介する。

1. 農産物検査の見直しをめぐる情勢

農産物検査の見直しに関しては、規制改革推進会議農林水産WGにおいて、農水省や関係者のヒアリングが行われたが、4月開催の同WGヒアリングにおいて、日本品質保証機構等から「JAS規格へ一本化すべき」との提案が突如出されている。

農水省からは、「JAS規格を設定し、農業者が選択できるようにすることは重要だが、農産物検査をJAS規格に一本化することは反対」と述べたほか、農業者の委員からは、廃止ではなく、今の制度を改善していくべきとの意見が出された。

2. 農産物検査を要件とする補助金・食品表示制度の見直し

農産物検査を要件とする補助金・食品表示制度の見直しは、令和2年度に措置する。

(1) ナラシ交付金、水田活用交付金等、数量・品質の確認が必要な補助金

農産物検査に代わる手法で助成対象数量を確認することにより支援対象とする。

(2) 産地、品種、産年などの食品表示

食品表示基準上、検査米、未検査米双方を対象に表示義務のある産地に加え、品種、産年、生産者、検査・品質確認を行った者などの一定の事実情報の任意表示を可能とする。(例：品質確認JAOO(登録検査機関名))。農産物検査済みのものは、「農産物検査証明による」旨の表示ができるようにする。

3. 農産物検査規格の総点検と見直し

さらに、農産物検査規格の総点検と見直しは、今年度検討を開始し、概ね1年程度で結論を得ることとしている。

(1) 農産物検査規格および商習慣の総点検・適正化

① 1等、2等区分の等級区分と名称の見直し

② 皆掛重量についての検査やいわゆる余マスの見直し

③ 都道府県ごとの「産地品種銘柄指定」の見直し、全国的な「品種銘柄」設定等手続の迅速化・簡素化など、銘柄設定等手続の見直し

④ 量目、荷造りおよび包装規格の簡素化外

(2) 新JAS規格の制定

安全性、食味など消費者、ユーザーのニーズを取り込んだJAS規格を民間主導で制定する。農林水産省は規格制定を積極的に支援する。

4. 今後の対応

今般の農産物検査の見直しについては、未検査米にも「産地・品種・産年」の3点表示を認める内容であり、不正な表示等がないよう、JAGグループとして行政による万全な関与を求めるとともに、補助金に係わる数量・品質の確認についても厳格な運用を働きかける。

また、農水省では、7月17日に閣議決定された規制改革実施計画に基づき、「農産物検査規格等・米穀の取引に関する検討会」を設置し、8月下旬から検討を開始する予定であり、その内容を注視したい。

(中央会 農業対策部)

働きやすい職場パンフでPR

～若手職員中心に制作～

J A 十和田おいらせは、就職活動をする学生向けの採用パンフレットを制作した。入組2年目の広報担当職員が中心になり、求職者の目線で情報をまとめた。県内外34の高校と大学へ郵送。J Aのホームページにも掲載して、認知度向上と人材確保を目指す。

パンフレット制作は、教育人事課と広報担当職員が企画立案した。入組2年目で、企画広報課の谷坂咲子さんは「入組前は職場に馴染めるのかが一番不安だった。笑顔の多い写真で、普段の明るく楽しい職場を伝えたい」と話す。

A 4版の8ページ構成で、表紙には職員の集合写真と「私たちと一緒に働きませんか」のタイトルをつけた。各部署の業務内容、J Aの活動として、職員研修の様子や農家、地域との交流を紹介してある。また、「先輩からのエール」として、入組2年目から

11年目の職員が登場し、1日のスケジュールや仕事のやりがい、J Aの魅力などをコメント。入組後、人材育成に向けたサポート体制で、働きやすい職場づくりをアピールしている。

山端絹子教育人事課長は「写真を多くし視覚で伝える紙面に仕上がった。J Aを身近に感じ、興味を持つ人が増えてほしい」と期待する。パンフレットは本支店の窓口にも設置し、J A利用者にも事業を広くアピールしていく。



職場の情報を一冊にまとめた採用パンフレット
(十和田市、7/7)

米農家が先生

～5年生に地域の稲作詳しく紹介～

十和田市立松陽小学校の5年生7人は7月31日、米生産者をゲストティーチャーに迎え、米づくりのノウハウを学んだ。児童は教科書には載っていない農家目線での経験談などを通じ、地元産米の魅力や農業の楽しさについて理解を深めた。

授業には十和田市の米生産者、斗沢信一さん(43)と山崎清仁さん(48)が講師を務めた。①米づくりの1年②県産米品種の流れ③米価の変化④同市に米づくりが広まったきっかけなどについて説明した。

品種の流れでは、現在生育中の「まっしぐら」と「ゆめぴりか」の稲穂を観察。出穂する前の茎に隠れた穂を取り出し、出穂後との感触の違いを確かめた。

斗沢さんと山崎さんは「苦労や楽しさは農家にしか教えられない。授業を通して、少しでも農業に興味をもってもらえたらうれしい」と話した。授業を終えた児童は「普段知ることのできないことをたくさん学べた」「普段とは違う授業で楽しく学べた」と喜んでた。



穂を観察する児童(7/31・青森県十和田市)





輝き

JA共済連青森
事業企画部 業務総合G
佐藤 昂平 さん

●プロフィール
令和2年4月から勤務 弘前市出身 22歳

— 働くきっかけは？ —

地域貢献ができ、責任が大きい仕事を通じて、人として成長できる職場であること。また、相互扶助の理念に惹かれたことがきっかけです。

— 業務内容を教えてください。 —

支店統廃合等の対応や、その他ネットワーク関係の電算対応等の業務を担当しています。

— 働いた感想は？ —

初めてのことがばかりでついていくので精一杯ですが、様々な打ち合わせや日々の業務は良い刺激を受けていると実感しています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

まだまだ不完全ではありますが、自分が持っている仕事に優先順位をつけて仕事をすることや、「ホウ・レン・ソウ」を心掛けています。

— 特技・趣味は？ —

旅行が好きですが現状難しいので、最近は、小学校3年生から大学3年生まで続けていたバドミントンを週に1〜2回やっています。

— あなたが自慢できることは？ —

嫌いな食べ物がないです。食べ物であればすべて美味しいと感じられます。

— 将来の夢は？ —

早く業務に慣れて、一戦力として職場に貢献することです。

ともちゃんのヤーコン茶

青森市三内丸山の小田島友子さん(70)は、青森市新城のほ場でヤーコンを栽培し、葉と茎から作った「ともちゃんのヤーコン茶」をJA青森の直売所などで販売している。南米原産の野菜「ヤーコン」は、糖尿病や高血圧予防に効果が期待されるとして、近年日本でも注目度が高まっている。

小田島さんは20年程前、親しい農家に勧められて栽培を開始し、青森市ふれあい農園の指導を受けながら栽培技術を身につけた。



自慢のヤーコン茶と小田島さん

10月半ばに収穫したヤーコンの葉と茎は「口に入るものだから」とゴミや汚れが取り除かれるまで何度も洗浄する。その後、自宅の業務用乾燥機でしっかり乾燥している。

「夏は、お湯で煮出した後に冷やして飲むのもお勧め」と小田島さんは話す。「ともちゃんのヤーコン茶」はリピーターが多く、取り扱いのある直売所やスクール浜館店では1年分まとめ買いしていくお客さんもいる。賞味期限が2年と長いことも人気の秘密だ。

小田島さんは「便秘の女性にも効果が期待できるそうで、色んな方に飲んでみてもらいたい」とヤーコン茶の魅力を話す。

1袋(80g)、600円(税込)で販売している。

問い合わせ先：「JA青森あすなる直売センター」

電話：017(787)1988

記事提供：JA青森



催事カレンダー

開催日時		JA名	イベント名	開催場所	問合せ先	
月日	時間				部署	電話番号
9月12日(土)	11時~12時30分	JA全農あおもり	イトーヨーカドー「青森県フェア」トップセールス	イトーヨーカドー青森店	企画管理課	017-729-8615
10月10日(土)	9時~15時	JA全農あおもり	「青天の霹靂」新米発売イベント	イトーヨーカドー青森店	米穀流通課	017-729-8636

展開

J A 津軽みらい



リンゴ販売・精算統一開始 強固な販売・精算を



リンゴを選果する作業員（青森県平川市で）

J A 津軽みらいは、黒石、平賀、石川、板柳の4青果センターで行っているリンゴの販売・精算業務を2020年産から統一化することとした。これまでは、各青果センターで別々の販売・精算業務を行っていた。

自己改革の一環で、内部統制の運用確立、人員不足による選果・販売のチャンスロス軽減と販売強化、施設運営・精算事務の効率化を目的とし、更なる生産者の所得向上を目指す。

昨年12月から今年3月にかけて、生産者から統一に向けての疑問点の聞き取りや不安解消のための説明会などを各地区で行った。

統一化の取組みとして、専任職員が巡回を行い各選果場の選果基準の維持と平準化を図る。また、選果作業の効率化を図るため品種によっては選果場を集約し、少量品種は1選果場を集約する。

同J A 青果部りんご野菜課の販売担当職員は、今後について「市場毎、市場外毎に販売担当者を配置し、大型ロットの注文に対応することで、J A 津軽みらいのシェア率向上を図り有利販売に努めていく」と話した。

後編 編集集

8月下旬だというのに、連日、晴天で最高気温30度越えの真夏日がずっと続いており、暑さに弱い者として体調がすこぶる悪い？ような気がする。

青森はねぶた祭り（毎年、8月2日～7日開催。今年は戦時中以来の中止とか）が終われば、朝夕はめっきり涼しくなり、セミの鳴き声とともに初秋を迎えるが、今年は、野菜の高騰同様、高温状態が続いている。

さて、マスコミでは連日、新型コロナウイルスの報道が止まない状況だが、ついにというか、とうとう、自分が新型コロナウイルスに感染する夢を見てしまった。（実際は罹患していない）

それは、連日のエアコンを浴びて鼻づまりが続いていたある夜のことだった。夢なので、あまり、定かな記憶は無いが、県外にいる2人の子供達が

「パパ、コロナだからこっちにこないで・・・」と手をパッパとされている最悪の夢。途中、鼻づまりの影響でうまく息ができなかったためかどうかわからないが、夜中の3時に飛び起きてしまい、隣で寝ていた愛妻がびっくりして「どうしたの？なんか悪い夢でも見たの？うなっていたけど」と一言。

夢の話はバカにされそうだったので違う話でごまかしたが、「あっそう」！で終わり。愛妻との共存も大変な苦労だが、コロナとの共存は当面続くので、県内のJ A 組合長が話していた「J A 内からコロナを出したら組合員に申し開きできない」という思いを強く受け止め、感染防止対策を続けてまいりたい。（公）



ホームページアドレス

- J A 青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A 情報などをご覧いただけます。
- J A バンク青森 <http://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJ A バンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A 全農あおもり <http://www.am.zennoh.or.jp/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A 共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp/>
J A 共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

役立つ、得する、
楽しい情報が満載

●購読のお申し込みは **JA** へ
購読料 1カ月 2,623円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<https://www.agrinews.co.jp>

知る、活かす、つなぐ～JAグループ情報共有運動



"Ienohikari"
家の光

5月号で

は創刊**95**周年

これからもJAと地域のみなさんの役に立つ
食と農の耳寄り情報をお届けしてまいります!

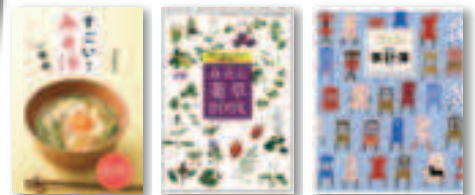
いま
“知りたい”



暮らしの旬のテーマを取り上げます

創刊95周年記念

今年の5・9・12・1月号は、別冊付録2冊付き!



年6回は
別冊付録付き



食と農 暮らし 協 同 家 族

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

家の光

定価(税込) ●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
●家計簿付き12月号 1,027円

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町 11
TEL.03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>





つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし



対象ツアー絶賛発売中！
安心の添乗員付



11/5 (木) 青森空港発着
四国八十八カ所お遍路の旅8日間

250,000円が 87,500円割引で
Go To 適用にて **162,500**円
なんと!



11/16 (月) 新青森駅発着
秋の山陰山陽・四国をめぐるフルムーンの旅5日間

248,000円が 56,000円割引で
Go To 適用にて **192,000**円
なんと!



1/19 (火) 新青森駅発着
五島列島と長崎の旅4日間

169,000円が 42,000円割引で
Go To 適用にて **127,000**円
なんと!

専用の募集チラシをご用意しております。詳しくは農協観光青森支店まで

旅行企画・実施
お問い合わせ・
お申込み



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 **農協観光青森支店**
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
総合旅行業務取扱管理者：伊藤 亨・田川ますみ
TEL 017-729-8800
FAX 017-729-8803

お問い合わせは
お申込みは

青森県知事登録旅行業者代理業第28号
JA 十和田おいらせ旅行センター
☎0176-23-0374
国内旅行業務取扱管理者 / 桜田 康子
青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうぎ青森旅行センター
☎0175-72-1433
総合旅行業務取扱管理者 / 八重樫泰浩

青森県知事登録旅行業者代理業第15号
JA 津軽みらい旅行センター
※現在“休業中”です

作品介绍

●令和元年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門第二部）

「やってわかった 田植えの大変さ」

十和田市立東小学校

6年 立崎 来実



■優秀賞（図画部門第二部）

「稲刈りをお兄さんとやったよ」

十和田市立高清水小学校

6年 笹森 英義